

## 一十能 十

〔窓の須佐美三〕今川の郷人ども、年貢料を金納するとして、七人つれあひて、金七十兩を庄屋の方へ持來りしが、や、ありて一人刀を抜て庄屋を切殺しぬ、妻子これを見ておこりたちたる炭火を火かきに盛り來りて、切たる男のかしらより打かけければ、一向に動く事も得せず、その外のものも驚きて、彼これと此男を介抱せんとすれども、火もへたちてあきれば、たたる所に、代官役人且村人より來て、ことごとくとらへ、奉行所へ達して召捕けり、

## 火消壺

〔守貞漫稿六生業〕瓦器賣

火消壺ハヲキヒヲ消ス壺也、京坂ニテハカラゲシ。壺ト云、水消、カラ消二種アル故也、江戸ハ水ケシセズ、故ニ火ケシ壺、或ハ上略シテケシ。ツボトモ云フ、

〔寶藏五〕炭消壺

其形ふつ、かなるつぼ有、上つがたには、まろしめされぬあやしのものなり、この名をすみけしつぼとなんいへるは、其用炭の火のあまれる消せるに有、其きやせる折から打いれ、ふたをもちてこれをおほふ、きびしき時はきえ、すきまある時はきえず、おもふに火はもゆるが順也、きゆるは逆なり、人生れながらにして、まろする事あらねば、人のいさめ世間の道理、胸中にいれ用ざる人は、逆心なるべき事、このものにつきてまれり、

すみけしのふたやひかれる月の雲

守節藪醫處、竹林、煉丹、殘火、固無侵、壺中天地、乾坤外、眼下純陽生、一陰

## 鐵輪

〔下學集上器財〕鐵輪カチワ

〔運歩色葉集賀〕鐵輪カチハ夏ノ禹始造也

〔饅頭屋本節用集加財〕鐵輪カチワ